戸島コース

阿蘇開拓神話伝承と交通の要衝戸島山周辺を訪ねる

こちらもオススメポイント！

1 蔵六山正栄寺

浄土真宗本願寺派の寺院。明治15年（1882）に仮説教所が設置されたが続かず、住職も数代代わり、昭和22年から寺号を蔵六山正栄寺と公称した。戸島小学校発祥の地でもある。先代稲丸堯俊師の調査研究の遺稿が現託麻東校区の郷土資料に多く活用されている。

2 日下部民俗資料館

日向下老人クラブの発案で、明治・大正・昭和初期の農村の生活用具・農具などを収集し、永く後世に伝え保存するため、昭和58年7月に資料館が設置された。熊本市博物館民俗学の学芸員の指導を得て、130点余を展示している。管理は町内老人会が行っている。

1 葉山（羽山）天満宮

神殿一帯で弥生時代の遺物が出土しており、自然石1ヶを御神体とする。「天神さんが馬に乗ってやってきたお休み所である」との伝承があり、お祭りには藁（わら）や大豆を炊いて供えるという。境内内の記念碑からすると、承平5年（935）の創建となる。

2 日向下地蔵

両手に宝珠を持つ舟形光背の石造地蔵立像である。

3 日向の首なし地蔵

寛延3年（1750）建立の光背のない地蔵で、両手に宝珠を捧げているが、首から上がないため、俗に「首なし地蔵」と呼ばれている。
明治初期の神仏分離・廃仏毀釈により壊されたと思われる。

4 日向の六地蔵石幢

熊本市指定文化財。室町時代末期の文明14年（1482）に造立されたもので、六地蔵石幢の完形品として重要である。
六地蔵は六道救済の石仏で、また道行く人々の安全祈願と道路標識の役も兼ねていた。この地は、「薬師湿通り」と呼ぶ「菊池―戸島―木山―御船」を結ぶ昔の道路である。（※写真は熊本地震前のものです）

5 日向の歳の神

御神体は木彫りの男女二神座像。国郡一統志戸島の項に「年神」が見えるので創建は寛文7年（1667）以前と考えられる。

6 戸島神社入口五輪残欠

五輪塔残欠と宝塔身の組合せになっている。「地輪・水輪・宝塔身・火輪・風空輪」と重ねてある。宝塔身には四方仏を彫ってある。風化が激しく種子や刻銘などは判明しない。

7 日向上の猿田彦大神

日向上の中央東角と同じく下境境界道路横に巨大な猿田彦大神碑(注)があるふりずれも大正年間の建立である。
(注)猿田彦大神　日本神話の始めに出てくる神話で天照大神の孫であるニニギノコトを高千穂峰まで道案内したことから、道案内として祀られている。

8 日向上天満宮

国郡一統志（寛文7年・1667）には、戸島村天神の森となっているので、当時は社殿はなし。肥後国誌（明和9年・1772）では天神社と記されているので、その頃は社殿が出来ていたことが判る。
境内のケヤキ・楠の大木は、熊本市の指定保存木である。
※天井画を崇城大学学生が修復しました。

9 戸島経塚跡

古くから経塚と呼ばれており、国郡一統志の戸島の項に「経塚」と挙げられている。小山今村へ抜ける道路中央部にあったが、昭和初期の開墾時に消滅した。そのとき塚からは一字一石の経石が多数掘り出されている。現在は道路脇に自然石を置いてその跡を示しているに過ぎない。

10 吉祥寺円通山跡

肥後国誌に「戸島村吉祥寺正平年中（1346～1370）、大智禅師の開基と云う」とある。円通山の山号木額が残っている。
境内に中興の住職墓碑「当時開山寒悟良済禅師」元禄7年（1694）の紀年銘入りと不鮮明な天文25年（1556）の板碑がある。五輪塔残欠も散在し中世寺院の面影を残している。「水かけ観音」・「いぼ地蔵」も祀られている。

11 万年箒元祖 江藤清九郎記念碑

戸島特産であった黍箒（きびほうき）創始者江藤清九郎氏の記念碑である。氏は終生農村振興に努力し、明治22年（1890）黍箒製造の技術を修め、その振興と普及に尽力した。氏の努力と偉業を讃えて関係者一同が大正13年（1924）に建立したものである。昭和12～18年頃は年間生産高10万本であったが、同30年代後半頃より衰退した。

12 日向の猿田彦大神

日向上・下のちょうど中間に位置し昔の旧道の角に巨大な猿田彦大神碑がある。大正7年（1918）の刻銘がある。

13 戸島神社

神社は「熊野宮」であり「戸島の権現さん」と呼ばれ、石段を登りつめた戸島山中腹にある。祭神は「いざなみ・いざなきの二神と梅若彦神」である。
国郡一統志には「戸島権現」とあるので、寛文7年（1667）以前の創建に間違いないと思われる。参道中腹には五輪塔残欠や板碑・禁制石碑がある。

14 戸島山奥の院大師堂

大正8年、村の有志9名の尽力により大師堂を建立。横に十三仏像堂を併設。大正15年、託麻新四国八十八ヶ所設立に参加、現在15番札所となっている。

15 香福寺砥島山跡

天台宗の香福寺砥島山は、この戸島山西麓にあったがいつの頃か廃寺になった。延宝年中（1673～1681）移転して、改宗再興したのが熊本市中央区本山4丁目の浄土真宗香福寺砥島山東光院という。移転の折り、住民の願いで残った薬師如来像は、札の辻薬師堂で盗難にあい、現在不明である。

16 北向下妙見社と水源

戸島山西麓に水源があり、住民の生命を守る神様として昔から崇敬されてきた。
水源の下手に社殿を設け、自然石を三ヶ奉祀している。
安政3年（1856）本庄手永の惣庄屋古閑才蔵は出水を三ヶ所に分留し、196戸への通水工事を実施。大正13年この水源から簡易水道が出来、住民の喜びは言語に絶するもので昭和20年代まで活用された。

17 北向上毘沙門堂

創建は不明だが、国郡一統志に戸島毘沙門と記銘があるので、寛文7年（1667）にはすでに存在していた。堂内に「託麻郡砥嶋村祐助」の銘の直径28cmの鉄鰐口（わにぐち）がある。

18 飯盛大明神宮

言伝えによれば、承平5年（935）小山諏訪神社の御造営に当たり、神饌を司った神を祭ったお宮と言われている。境内に昭和9年（1934）銘の千年記念の標石がある。祭礼は12月21日で儀式終了後、珍しい飯盛行事が行われる。なお明和元年（1764）から現在までの祭記録が保存され、重大記事なども明記されている。

19 北向上小嶺地蔵堂

地蔵は舟形光背立像造り出し石像で、蓮華座上に立ち両手で宝珠を捧げている。安永10年（1781）に小嶺の若い人たちが建立した。

20 北向下柿の木地蔵

石造の両手に宝珠を持つ立像で、江戸三大飢饉の一つで疫病も流行った天明5年（1785）に建立された地蔵である。

21 北向下阿弥陀堂と放牛地蔵

北向下阿弥陀堂・・・光背の欠損した阿弥陀如来立像が安置してある。右傍らに香福寺跡の薬師座像があったが、近年盗難にあい現在は不明。
ここを札の辻と呼ぶ。藩政時代託麻郡の高札場であり、明治8年～9年（1875～76）頃まで存在し、榎の里数木も昭和48年頃まで残っていた。（写真左）
放牛地蔵・・・江戸三大飢饉といわれる享保年間、享保16年（1731）放牛が建立した95体目放牛石仏である。放牛は僧侶で、死者を弔い、精神的救済をはかるため、江戸中期の享保7年（1722）から「11年間で県内各地に118体の石仏を作ったと伝えられる。庶民の生活は凶作・飢饉で餓死者が出るほどの困窮をきわめた時代であった。（写真右）

22 北向下地蔵

舟形光背の石造立像。凶作・飢饉で庶民の生活は困窮をきわめた時代、安永10年（1781）の建立である。

モデルコース

所要時間：約90分
消費カロリー：約250kcal

1 葉山（羽山）天満宮 → 2 日向下地蔵 → 3 日向の首なし地蔵 → 4 日向の六地蔵石幢 → 5 日向の歳の神 → 6 戸島神社入口五輪残欠 → 7 日向上の猿田彦大神 → 8 日向上天満宮 → 9 戸島経塚跡 → 10 吉祥寺円通山跡 → 11 万年箒元祖記念碑 → 12 日向の猿田彦大神 → 13 戸島神社 → 14 戸島山奥の院大師堂 → 15 香福寺砥島山跡 → 16 北向下妙見社と水源 → 17 北向上毘沙門堂 → 18 飯盛大明神宮 → 19 北向上小嶺地蔵堂 → 20 北向下柿の木地蔵 → 21 北向下阿弥陀堂と放牛地蔵 → 22 北向下地蔵

パノラマコース

戸島山を登るコースです。

1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 13 → 14 → 17 → 20 → 21 → 22

Copyright：熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会